

英語教育実践論(7)

教材研究 Do's and Don'ts

南村俊夫

「読み」の教材研究(3)

Do's and Don'ts 69

形容詞を日本語にする場合に、前後から内容を考える必要のある語がある。それを具体的に訳せ。形容詞の訳だけでは不十分である。

例えば、*Women ask for equal pay because they work as hard as men.* という文では「女性は男性と同じように一生懸命仕事をしているのだから、男性と同じ給料を要求している」という文のように、*equal pay* には「誰と同じかは後の文から考えて、「男性と同じ給料」と訳していくのが妥当である。同じように *Equal pay for equal work!* というがあれば *pay* が誰と *equal* なのか、*work* が誰と *equal* なのかを前後から判断して訳す必要があるはずである。この *equal* のように、*different, same, suitable,* などの多くの形容詞では前後からその内容を判断していく必要がある。

[指導]

What about *Uma no mimi ni nembutsu*? Who says Buddhist prayers to a horse? Buddhist prayers and horses are so far apart that I couldn't understand the meaning at first. In fact I thought this proverb had the opposite meaning: even horses need our prayers, such as some people think that music is good for plants.

Now I like this proverb. It means that someone doesn't understand your advice. Putting together two unrelated things is fun.

(Vivid English Course I L.3)

T: それでは最初の段落を考えてみましょう。日本語の「馬の耳に念仏」という諺の話です。念仏という語がどの英語にあたるかわかりますか。

S1: Buddhist prayers ではありませんか。

T: Good. では第3番目の文を日本語にしてみましょう。念仏と馬とはどのくらいかけ離れている、と言うのでしょうか。S2さん。

S2: 「最初は意味が分からないくらい」です。

T: OK. では、次の文を見て下さい。in fact はどう言う意味でしょうか。S3君。

S3: 「実際」という意味です。

T: Right. つまり、前の文を強調するための言葉ですね。次の文、**It was a very hot day; in fact, it was 100 degrees.** (DAI) の訳は、「とても暑かった。実際、100度あったんだ。」で、100度は華氏ですね。このように、前の「暑い」を強調して、「事実」とか、「実際」の意味で使われます。「念仏と馬は最初はその意味が分からなかったほどひどくかけ離れている」をさらに強調して、実際、～のように思った、ということです。ではどのように思ったのか考えて見て下さい。S4 さん。

S4: 「この諺は反対の意味を持っていると思った」です。

T: Very good. ではその「反対の意味」とはどういう内容でしょう。

S4: even 以下の「ちょうど音楽が植物にいい、というのと同じで、馬にもありがたい念仏が必要だ」という意味です。

T: その通りです。ではそれが反対の意味なら、そうでない本来の意味とはどういう意味でしょうか。S5 君。

S5: 次の段落の2番目の文、「相手がこちらの忠告を理解しない」ということです。

T: よくできました。テキストの下線部の **opposite** は「何と反対か」や、「反対」を具体的にすれば、などを知っておかねばなりません。形容詞をそのような観点から日本語にしないといけない場合があることを覚えておいて下さい。

Do's and Don'ts 70

他動詞からできる分詞が形容詞で使われている場合、その分詞の主語、目的語をはっきりさせて訳せ。分詞が形容詞だということを意識しなくてよい。

次の文を考えてみよう。Steve has an irritating habit of leaving the fridge door open. (LEA) この文を「スティープは冷蔵庫のドアを開けっぱなしにするいらいらさせる癖がある」と訳しても間違いではない。しかし、この訳だと、何が誰をいらいらさせるのかがはっきりしない。これを「スティープは冷蔵庫のドアを開けっぱなしにする。その癖で私はいらいらする（その癖が私をいらいらさせる）」のように訳すと Steve's habit irritates me. (I'm irritated by Steve's habit.) という関係がよく分かる。このように他動詞が分詞となった場合はその分詞の主語と目的語を日本語に訳出するとよい。

同じようなことが、副詞にも起こってくる。次の例を見て欲しい。

I did not go straight home. I could not. I turned to the direction of the Newington Butts market and looked in shop windows until late afternoon. When I returned to the garret, it looked **reproachfully** empty. この文は主人公の I が母親を精神科の病院に入院させた後の心情を述べたものである。最後の文は屋根裏部屋の家に帰った時、

屋根裏部屋が reproachfully empty に見えた、というのである。この reproachfully を何が何を咎めるかをはっきりさせて訳すとよいのである。つまり、emptiness reproached me となっていることを意図して訳すわけである。そうすると、「屋根裏部屋には母をおらず、それが私を咎めているように見えた」という訳になるはずである。因みに、この reproachfully のような修飾語句は transferred epithet (転移修飾語句) と呼んでいる。

[指導]

Dr. Wilson was interested in a kind of DNA called mitochondrial DNA (mtDNA). This mtDNA is passed on to children only by women. He collected samples of mtDNA from Asians, New Guineans, Australians, Europeans and Africans. He studied them and finally found a surprising answer to his question: the mother of us all was a single woman who lived in Africa about 200,000 years ago.

(Vivid English Course I)

T: この文を見て下さい。2行目に this mtDNA とありますが、どういうものでしょうか。S1 君。

S1: 「ウイルソン博士が興味もったミトコンドリア DNA です。

T: Good. ではその DNA の特徴はどうでしょうか。S2 さん。

S2: 「女性だけによって子供に伝えられる」という特徴です。

T: OK. 「4行目に them とありますが、その them を具体的にして見て下さい。S3 君。

S3: 「ウイルソン博士がサンプルとして集めたアジア、ニューギニア、オーストラリア、ヨーロッパ、そしてアフリカの mtDNA です。

T: Right. 次に、a surprising answer ですが、どういう答えなのでしょう。S4 さん。

S4: 「驚くべき答え」です。

T: Good. では驚かすのは何で、何を驚かしているのでしょうか。つまり、What surprises what? の2つの what を具体的にして見て下さい。

S4: 最初の what は answer で、後の what はウイルソン博士を含め、当時の人々ではないでしょうか。

T: Very good. ではその answer とは具体的にはどういう内容ですか。S5 君。

S5: 我々すべての者の母親はおよそ20万年前にアフリカに生きていた一人の女性だ、ということです。

T: よくできました。この文の下線部の surprising のような他動詞からできた現

在分詞の形容詞用法では、**surprise** という動詞にして、その主語と目的語をはっきりさせるとうまく日本語になることに注意しましょう。

Do's and Don'ts 71

文の中には、登場人物が心の中で思ったことが述べられている場合がある。それを事実のように訳してはいけない。心のうちが分かるように訳せ。

I touched her and kissed her on the cheek. She was warm. *Was she dead? No, that was impossible.* この文は交通事故でなくなった彼女 (she) を前にした母親の気持ちをイタリック体の英語で示したものである。前の2つの文は事実であり、イタリック体の2つの英文がI (母親) の心の中で思ったことで、*I said to myself, "Is she dead? No, that's impossible."* という表現の下線部が時制の影響を受けただけでテキストの中に示されたものである。直接話法だと、私は心の中で「彼女は死んだのだろうか。いや、そんな筈はない」と思った、という理路整然とした表現になるのだが、それを、*Was she dead?...* のように続けると、そこに緊迫感が生まれ、生き生きとした表現になってくるのである。直接話法でもなければ、間接話法でもない、このような話法を描出話法 (represented speech) と Jespersen は呼んでいる。

[指導]

Mari was still warm. Would she be cut up and the beating heart taken from her? I thought I should respect my daughter's will but that didn't make me cheerful.

(Vivid English Course I)

T: 母親の私は臓器移植ネットワークのコーディネイターに会いました。そのコーディネイターは「勇敢な娘さんですね。こんな完全なドナーカードは見ることがない」と言いました。それからの文です。最初の文に still とありますが、どういう意味ですか。S1 君。

S1: 事故にあって4日目、マリの脳波が止まって、それから母親がコーディネイターにあった時でも、という意味です。

T: Good. では次の文を見て下さい。意味はわかりますか。S2 さん。

S2: 「彼女が切り刻まれて、鼓動を打っている心臓が取り出されるのか」と言う意味です。

T: OK. では、この文は誰の気持ちを表したのですか。S3 君。

S3: お母さんの気持ちです。

T: Very good. この文は、I said to myself, "Will she be cut up and the beating heart taken from her?" のように考えていけばいいのです。従って、教科書の

形のままで、現在形に訳すのがこの下線部の文の訳し方になるのです。ではなぜ、このような形になっているのでしょうか。I said to myself, を除くことによって、母親の心の中の気持ちを、直接、読者の心に訴えかけられるようになっているのです。従って、この文を訳す時は、「(このまだ血の通っている) マリが切り刻まれて、鼓動を打っているマリの心臓が取り出されるの?」という訳になればいいのです。このような登場人物の心の内を言った言葉ができるだけそのまま伝える、間接話法でも直接話法でもない話法があることを知っておいて下さい。

Do's and Don'ts 72

文中に挿入された語・句を発見せよ。挿入の語・句の前にはカンマなどが置かれている。挿入語・句はまず除いて訳せ。はじめから語・句をそのままの順に従って訳してはいけない。

A child develops best when, like a young plant, he is left undisturbed in the same soil. という文を考えてみよう。この文は A child develops best when he is left undisturbed in the same soil. という文中に、like a young plant という挿入句が入ったものである。この文を日本語にする際にはまず、挿入句の入っていない文を「子供は同じ土壌で、気持ちをそらされることがないなら一番うまく成長する」と訳し、その上で、「苗木と同様」を挿入していくわけである。このように、挿入語・句のある文はまず挿入語・句を発見し、それを取り除いて訳し、後で挿入語・句を補っていくようにするとよい。

[指導]

The pleasures of childhood should in the main be such as the child extracts himself from his environment by means of some effort and inventiveness. Pleasures which are exciting and at the same time involve no physical exertion, such, for example, as the theater, should occur very rarely.

(Creative Reading Course 3)

T: 最初の文を考えてみましょう。子供の楽しみは主としてどんなものでなければならぬ、と言っていますか。S1 君。

S1: 「体を動かしたり独創性を使って、周囲から自分で手にすべきものだ」という意味です。

T: Good. 次の文はどうでしょうか。主語は文頭の pleasures だと分かりますね。その主語に続く動詞はどれでしょうか。S2 さん。

S2: should occur very rarely です。

- T: OK. では, Pleasures should occur very rarely. という文を訳してみてください。
S3 君。
- S3: 「楽しみは起こる回数はひどく少なくすべきだ」です。
- T: Very good. では pleasures の中を考えてみましょう。which are exciting and at the same time involve no physical exertion という修飾の節がありますね。これを訳すとどうなりますか。S4 さん。
- S4: 「楽しいが, からだを動かさない楽しみ」です。
- T: その通りです。では such 以下を考えてみましょう。この such と繋がるのはどの語でしょう。S5 君。
- S5: as the theater です。
- T: Good. 「観劇のような」となりますね。間の for example は「例えば」と具体例を挙げるための挿入句となっています。このように挿入語・句のある文では最初に挿入語・句を取り除いて訳していくとよいのです。次に, この2つの文の関係がわかりますか。S6 さん。
- S5: 対比になっているではありませんか。
- T: Very good. 「子供の楽しみは体を動かしたり独創性を使って, 周囲から自分で手にすべきものである」という最初の文と, 「例えば観劇のような, 楽しいがからだを動かさない楽しみはできるだけ少なくすべきだ」というのですから, 2つが対比されていますね。ここまでできるとこの文が分かったということになります。

